

You look so scary! (あなたがとても怖い)

先月、1年生のクラスで英語のスピーキングテストを実施しましたが、ある女子生徒との間でこんなやりとりがありました。

- Q: How are you? (調子はどう?)
 A: I am so nervous. (とても緊張しています。)
 Q: Why are you so nervous? (なぜそんなに緊張しているの?)
 A: Because you look so...so scary. (あなたがとても怖く見えるから。)



ショックでした(笑) 生徒が緊張しないようにと、いつもの3割増しぐらいの笑顔で話しかけていたつもりだったので、ストレートに「怖い」と言われて動揺しました。おそらく緊張して咄嗟に出た単語が“scary”(怖い)ただだけで、本当は違う言葉を選びたかったのかもしれないと楽観的に考えることにしたのですが…。

10年ほど前の出来事を思い出しました。年下の男性の先生を含む3人で、ある校則について真面目に話をしていました。ところがある時点で、その先生が私にこう言ったのです。「先生、怒らないでください!」頭の中が「???」で一杯になりました。私は全く怒っていなかったし、むしろ怒っていたのはその先生の方で、私は冷静に話をしていたつもりだったのですが…。家に帰ると更に止めが刺されます。夫に事の顛末を話し、「もしかして私の話し方は怖い?」と聞いてみました。すると夫は一言、「怖い」。夫でもそう感じるのだから(夫だから?)、相手が年下だったり、異性だったり、生徒だったりすれば、余計な圧がかかって、「scary」な状態を作ってしまうのだろうと肝に銘じた出来事でした。そこからは「人に正論を言う時は注意しよう」とか、「一般社会において論破なんて絶対にしてはいけない」とか「良い議論とは相手の思いを引き出すこと」などを心掛けてきたつもりですが、未だに「しゃべりすぎた…」と反省することも多く、まだまだ道半ばです。

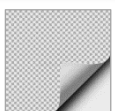
Sorry, I didn't mean to hurt you. (ごめん、傷つけるつもりはなかった)

英語論表Ⅰの教科書に出てきた謝罪の言葉です。ジョンレノンの名曲“Jealous Guy”の一節でもあります。先月終了した第3回「悩み調査」では、「学習」「進路」の悩みについて多かったのが「人間関係」でした。「友人・先輩・先生との付き合い方がわからない。」「人を傷つけたり、人に傷つけられたりした後に、元に戻れない。」多くの場合、その引き金となった言動は「そんなつもりではなかったのに…」。自分が思っている「私」と他人が見ている「私」には、少なからず開きがあって、大人でさえもそのギャップに気づいていないことが多いものです。そのため、時に様々な誤解が生まれます。知らずに人を傷つけていることも、傷つけられていることもあります。でも人を傷つけたと思った時は、シンプルに謝った方がいいし、相手の言動にどうしても我慢ができない時は、“You look so scary!” を使ってみたらどうでしょうか。相手はきっと驚くかもしれませんが、自分を振り返るきっかけとしてくれる…かもしれません。

1学年担当 池田祐三子

大塚SCの心理学のおはなし その9 指示元は内側か外側かー学習を自分からはじめること

リビングで食後にスマホを触っていて、さてそろそろ部屋に戻って課題をやらないといけない、と思った瞬間に母親に「いつまでスマホ触っているの!はやく宿題しなさい!」なんて怒られた経験はありませんか?途端にやる気がなくなりますよね。前回自発的な取り組みの重要性についてお話しました。同様に、現在の行動はどこから指示されたものか、つまり指示元はどこかで、わたしたちのやる気は大きく変わるそうです。指示元はいくつもあるので、心理学では大きく内側と外側に分けました。内側はまさに自分の意志です、外側はそれ以外ということになります。母親に怒られて、つまり外側から指示されるよりも、内側からつまり自分で学習をはじめるとはとても重要で、学習の成果にも影響を及ぼすことが知られています。



★ 3月のスクールカウンセラー来校日 3月13日(水) 9:00~12:00
 裏面も読んでください! 「DV防止教育 ジェンダーについての見識を広げよう」

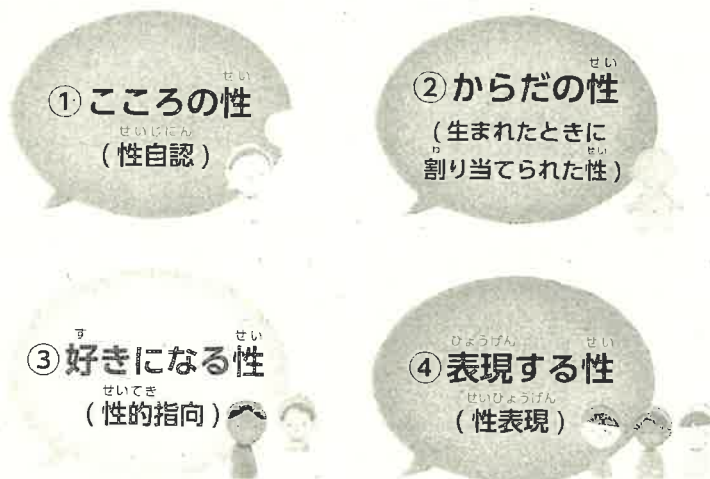
DV 防止教育 ジェンダーについての見識を広げよう

2月7日、「つがのきたいむ」で2年生の発表会が実施されました。たくさんの興味深いテーマの中にジェンダーに関するものがありました。「ジェンダー平等への道」では、LGBTQ をカミングアウトされた方へのインタビューで同性婚やパートナーシップなどの法整備の重要性、日常生活でのトイレ使用に関する問題点、カミングアウトしたときの気持ちなどが紹介されました。現代社会でも取り上げられる機会が増えてきた話題で、私たちには多様性を受け入れる姿勢が求められ、生徒のみなさんのジェンダーに対する関心の高さが感じられました。

❖ 多様性ってなんだろう 性別って2つだけなの？

性別とは何かと聞かれたら、女性と男性のこと、と考える人が多いかもしれません。これは性別二元論と言われる、性を「女」「男」どちらかに分類する考え方のことです。世の中には男女別に分かれた物事がたくさんあります。おもちゃや服についても、自分の好きなものを選ぶ前に、女子はこれ、男子はこちら、と決められていると感じたことはありませんか？ けれども実際には、性のあり方は男女の2つだけに限らず、さまざまなのです。

- ① 心の中の性 心の中の性(性自認)は、自分で自分の性別をどう認識しているかということ
- ② からだの性 からだの性(生まれたときに割り当てられた性)とは、からだの特徴から、出生時に病院で判断された性のこと
- ③ 好きになる性 好きになる性(性的指向)は、どんな性別の人を好きになるかということ
- ④ 表現する性 表現する性(性表現)は、服装やしぐさ、言葉遣いなどで、表現する性のこと



以上の「4つのものさし」の組み合わせからできていて、すべてのものさしは独立していて、連動するものではありません。多様な性のあり方で、相手が自分と同じ性であるという思い込みで会話をしたり、男女の決めつけをしたりすることで、苦しい思いをする人々もいます。様々な要素、組み合わせでひとりひとりが違います。

みなさんも多様性の観点から、性のあり方について考えていきましょう。